

自殺防止：NPOが活動3年 東尋坊パトロールで106人救う /福井

保護施設設立の動き

坂井市の東尋坊で、自殺防止活動に取り組むNPO「心に響く文集・編集局」(茂幸雄理事長)がこのほど、設立3周年を迎えた。3年間のパトロールで救った自殺志願者は計106人。茂理事長は「今後は、保護した自殺志願者向け施設の設立や、他県の自殺防止NPOとの連携など、パトロール活動以外にも力を入れたい」と話している。

同NPOが、これまでに保護した自殺志願者の出身地別内訳をまとめたところ、県内が25人と最も多く、残りは県外で、大阪府17人、石川県13人と続いた。福井では保護した自殺志願者を一時収容する専用の施設がなく、県外出身者も入居可能な保護施設の設立が急務になっている。これについては現在、県立大の真野元四郎教授が、福井市内のビルの一室で運営する精神障害者向けのクラブハウス「ネスト」を、保護施設として活用する方向で、同NPOも加わり、調整が進んでいるという。

また、今年には自殺予防活動を全国展開するNPO「ライフリンク」(東京都、清水康之代表)が、内閣府の協力や日本財団の助成を得て、全都道府県を回り、自殺対策をテーマにしたシンポジウム開催や遺族支援を訴えるキャラバン活動を企画中。現時点で、福井での具体的なキャラバン活動は未定だが、茂理事長は「全面的に協力したい。全国的なキャラバン活動で、官民一体となった自殺予防対策の基盤が全国に広がれば」と期待している。【大久保陽一】

[毎日新聞]20070503